

お薬



よもやま話

<15>

エジソンの夢

発明王エジソン(1847～1931)は少年時代、大空を翔けることを夢見ていたと言われます。

ただ、その頃の彼は化学に興味をもち、母親のナンシーが化学薬品や器具を買い与えると、それらを用いて薬の開発を試みたそうです。その一つに、飲むと人間が空を飛べるようになる

薬があったといえます。

それはヘリウムガスをヒントにして体内にガスを発生させるといってもない考え方の薬で、友人に飲ませたの

です。発生するガスの浮力で人間を浮き上がらせる計画でした。

しかし、実際には友人は激しい腹痛でもがき苦しみ、大騒ぎになりました。普段はエジソンに理解を示していたナンシーも、この件で

は激怒し、人体実験を厳しく戒めました。その後はどうやら化学者になることは諦め、彼の情熱は電信技術の習得や機器の発明に向か

います。

ところが、エジソンは化学者になることは諦めたものの、そ

で回す代わりに、火薬を燃焼させて(多分、ネズミ花火のように)プロペラを回転させ、空を飛ばせる仕組みだったようです。

しかし、エジソンが試作した火薬エンジンは実験中に爆発、幸い死傷者はなかったのですが、さすがのエジソンも危険な実験をそれ以上続ける訳にもいかず、本意ながらヘリコプターを諦めたようです。

ライト兄弟が史上初の人が乗った動力飛行機を飛ばすことに成功する13年前のことでした。

